第１９４回
取引先企業景気動向調査

２０２６年　７－９月 実績

２０２６年 １０－１２月 見通し

瀬戸信用金庫

総合企画部

＜ 調 査 の 概 要 ＞

●調　査　期　間　　2026年7～9月を対象に9月上旬に実施

●調 査 対 象 先　　296社

●調査対象地域　　瀬戸・尾張旭地区および名古屋地区

●分　析　方　法　　「増加したとする企業割合」と「減少したとする企業割合」の差（DI）を中心に分析した

※DIとは、業況を判断するための指数で、＜良い（やや良い）と答えた割合＞から＜悪い（やや悪い）と答えた割合＞を引いた数値で、どちらの割合が多いかを比べて業況がどの方向に向きつつあるかの判断を指数化したもの

●調査企業の業種構成

《瀬戸・尾張旭地区》

企業数（社）	陶磁器製造業						珪砂製造業	建築・土木・生コン製造業	螺子製造業	和飲食器卸売業	電設資材卸売業	合計
	ノベルティ	洋飲食器	タイル	電磁器	ファインセラミックス	和飲食器						
	15	7	7	23	13	18	10	20	15	20	16	164

《名古屋地区》

企業数（社）	製　造　業			卸　売　業			建設業	合計
	繊維製品	機械部品	紙加工品	鋼材・伸銅品	建築材料	家具・文具		
	11	36	14	19	15	7	30	132

●天気図の見方

好調 ←



→ 低調

景気動向は、1971年（昭和46年）から調査を開始し、現在の調査方法は2006年（第112回 1～3月期）より開始しております。

全業種 業況天気図（瀬戸・尾張旭地区／名古屋地区）

The Seto Shinkin Bank

■瀬 戸 ・ 尾 張 旭 地 区　【業種別の業況天気図】

業種		2024年9月	12月	2025年3月	6月	9月	12月	2026年3月	6月	9月	見通し12月
陶磁器製造業	ノベルティ	20.0		13.3		20.0		0.0		▲20.0	
	洋飲食器	▲14.3		▲14.3		▲14.3		▲28.6		▲28.6	
	タイル	▲28.6		▲42.9		▲42.9		▲28.6		▲28.6	
	電磁器	▲40.9		▲17.4		▲20.8		▲17.4		▲21.7	
	ファインセラミックス	▲23.1		25.0		23.1		7.7		7.7	
	和飲食器	▲9.5		▲11.1		▲12.5		0.0		▲5.6	
陶磁器製造業合計		▲16.5	▲14.5	▲6.1	▲7.3	▲6.1	▲1.2	▲8.4	▲8.4	▲14.5	▲8.4
珪砂製造業		▲20.0		0.0		0.0		▲10.0		0.0	
建築・土木・生コン製造業		▲15.8		15.8		0.0		5.0		15.0	
螺子製造業		▲5.9		11.8		0.0		6.7		0.0	
和飲食器卸売業		▲5.0		▲5.0		5.0		5.0		▲15.0	
電設資材卸売業		5.9		0.0		12.5		12.5		12.5	

■名 古 屋 地 区　【業種別の業況天気図】

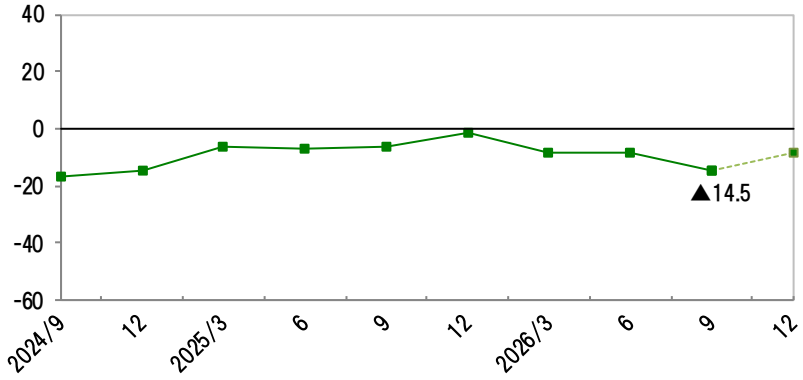
業種	2024年9月	12月	2025年3月	6月	9月	12月	2026年3月	6月	9月	見通し12月
繊維製品製造業	▲18.2		0.0		▲9.1		9.1		▲18.2	
機械部品製造業	▲5.6		0.0		▲2.8		2.8		16.7	
紙加工品製造業	▲13.3		▲20.0		▲20.0		▲26.7		0.0	
鋼材・伸銅品卸売業	▲10.5		▲15.8		5.3		▲5.3		▲10.5	
建築材料卸売業	▲14.3		▲28.6		▲14.3		▲21.4		▲6.7	
家具・文具卸売業	▲14.3		▲14.3		0.0		0.0		0.0	
建設業	6.7		3.3		6.7		16.7		13.3	

■ 瀬戸・尾張旭地区

＜ 陶磁器製造業 ＞

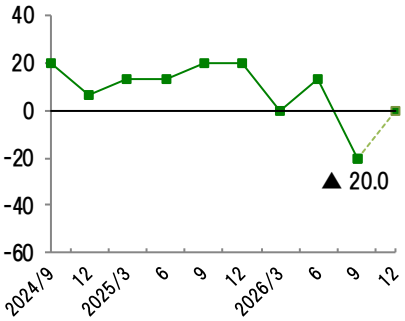
業種	2026 年 7-9 月（今回）業況		2026 年 10-12 月の見通し	
陶磁器製造業全体		「ファインセラミックス」において改善の動きがあったものの、「ノベルティ」「洋飲食器」「和飲食器」において業況の悪化が見られたことから、全体の業況感は悪化した。		改善見通し
ノベルティ		悪化傾向、マイナス圏に落ち込み		改善見通し
洋飲食器		悪化傾向、前回調査に続きマイナス圏で推移		同水準の見通し
タイル		前回調査に続きマイナス圏で横ばい推移		同水準の見通し
電磁器		前回調査に続きマイナス圏で横ばい推移		同水準の見通し
ﾌｧｲﾝｾﾗﾐｯｸｽ		改善傾向、プラス圏に回復		回復見通し
和飲食器		悪化傾向、マイナス圏に落ち込み		改善見通し

業況DIの推移　　[陶磁器製造業]

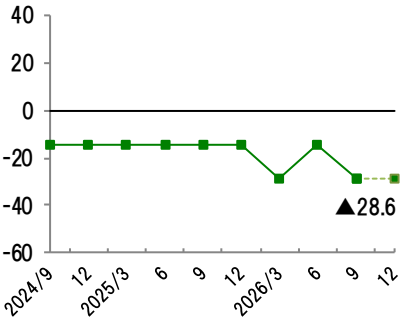


＜陶磁器製造業の業種別ＤＩ＞

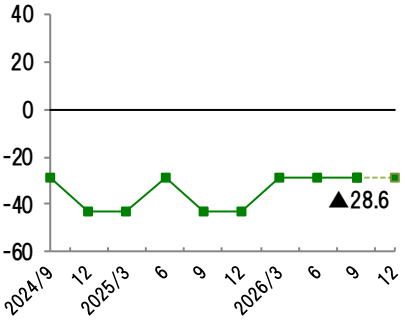
業況DIの推移　[ノベルティ]



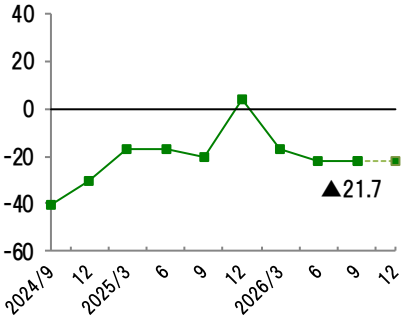
業況DIの推移　[洋飲食器]



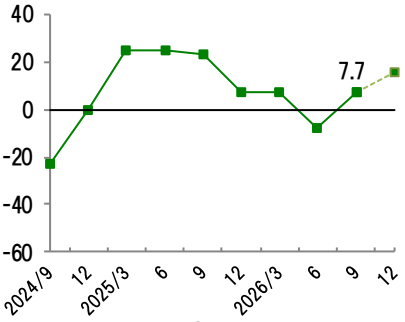
業況DIの推移　[タイル]



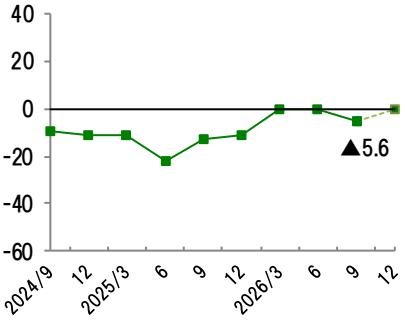
業況DIの推移　[電磁器]



業況DIの推移　[ファインセラミックス]



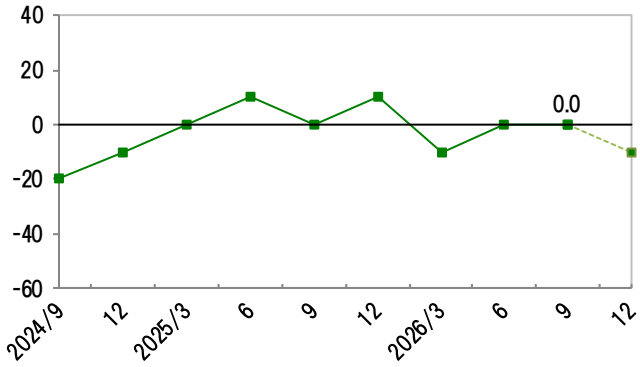
業況DIの推移　[和飲食器]



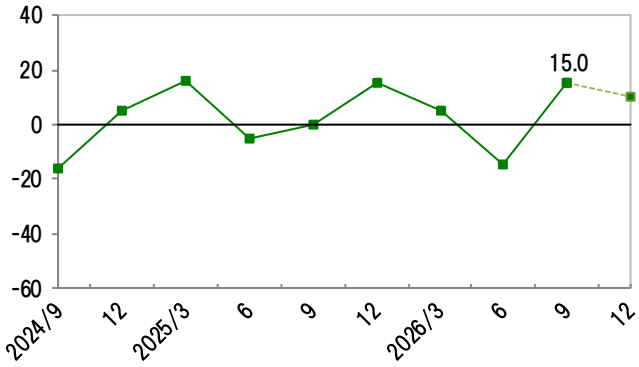
＜ その他製造業 ＞

業種	2026 年 7-9 月（今回）業況		2026 年 10-12 月の見通し	
珪砂		前回調査に続きプラス圏で横ばい推移		悪化見通し
建築・土木・生コン		改善傾向、プラス圏に回復		後退見通し
螺子		改善傾向、プラス圏に回復		同水準の見通し

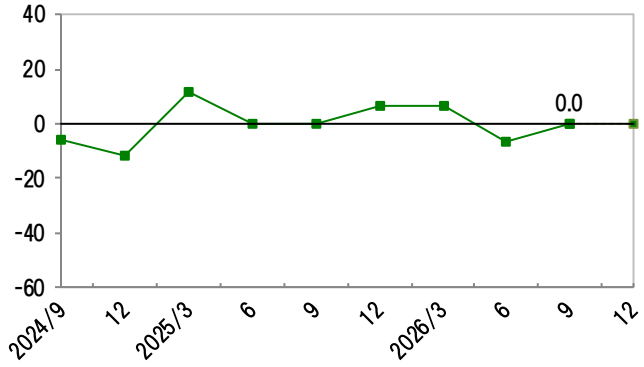
業況DIの推移　[珪砂製造業]



業況DIの推移　[建築・土木・生コン製造業]



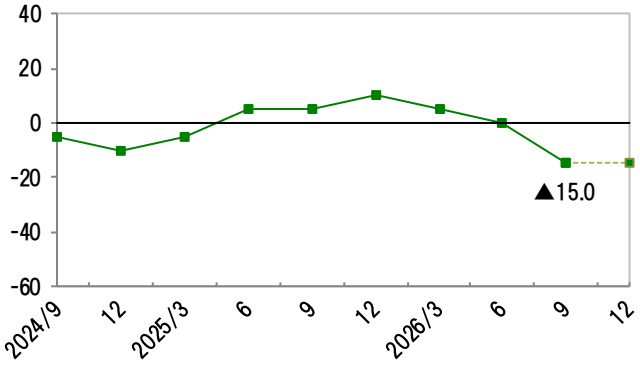
業況DIの推移　[螺子製造業]



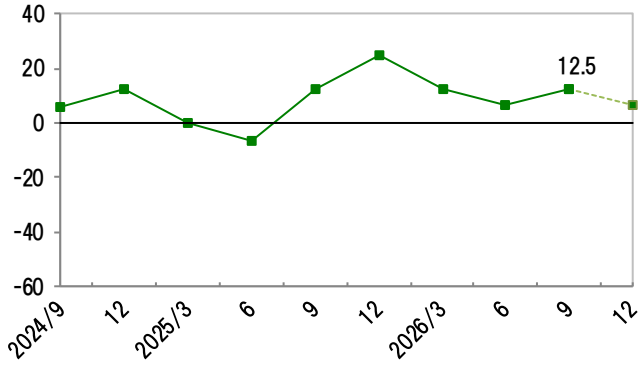
＜ その他卸売業 ＞

業種	2026 年 7-9 月（今回）業況		2026 年 10-12 月の見通し	
和飲食器		悪化傾向、マイナス圏に落ち込み		同水準の見通し
電設資材		回復基調、前回調査に続きプラス圏で推移		後退見通し

業況DIの推移　[和飲食器卸売業]



業況DIの推移　[電設資材卸売業]

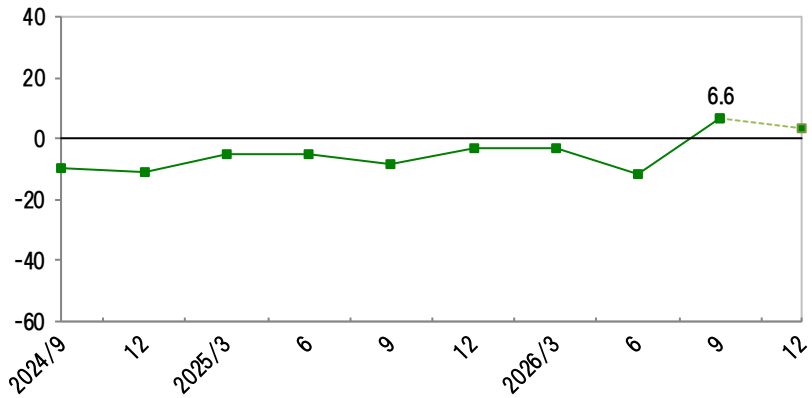


■ 名古屋地区

＜ 製 造 業 ＞

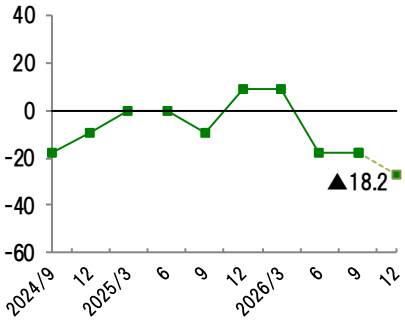
業種	2026 年 7-9 月（今回）業況		2026 年 10-12 月の見通し	
製造業全体		「機械部品」「紙加工品」において改善の動きが見られたことから、全体の業況感は好転した。		後退見通し
繊維製品		前回調査に続きマイナス圏で横ばい推移		悪化見通し
機械部品		改善傾向、プラス圏に回復		後退見通し
紙加工品		改善傾向、プラス圏に回復		同水準の見通し

業況DIの推移　［製造業］

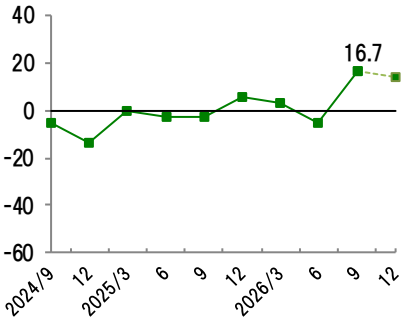


＜製造業の業種別ＤＩ＞

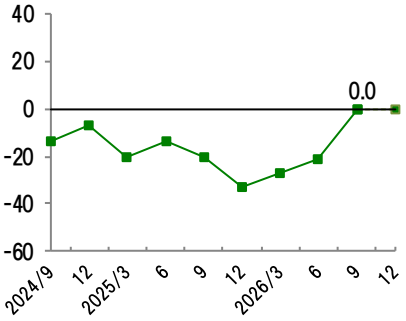
業況DIの推移　［繊維製品］



業況DIの推移　［機械部品］



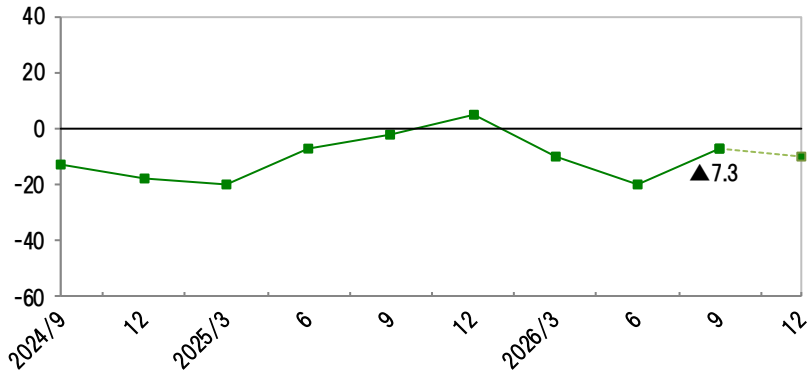
業況DIの推移　［紙加工品］



＜ 卸 売 業 ＞

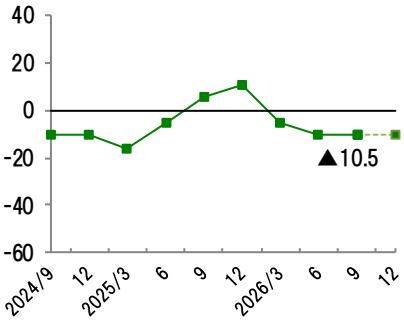
業種	2026 年 7-9 月（今回）業況		2026 年 10-12 月の見通し	
卸売業全体		「建築材料」において改善の動きが見られたことから、全体の業況感は持ち直したものの、前回調査に続きマイナス圏での推移となった。		悪化見通し
鋼材・伸銅品		前回調査に続きマイナス圏で横ばい推移		同水準の見通し
建築材料		改善傾向ながら、前回調査に続きマイナス圏で推移		悪化見通し
家具・文具		前回調査に続きプラス圏で横ばい推移		同水準の見通し

業況DIの推移　　[卸売業]

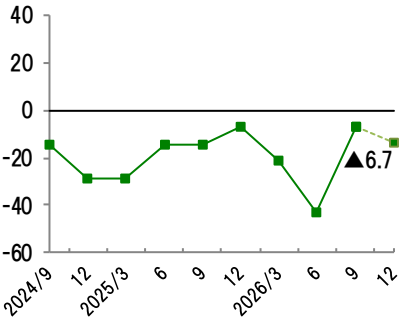


＜卸売業の業種別ＤＩ＞

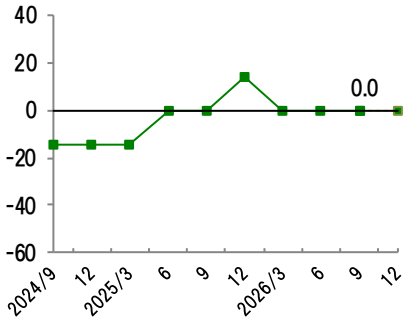
業況DIの推移　[鋼材・伸銅品]



業況DIの推移　[建築材料]



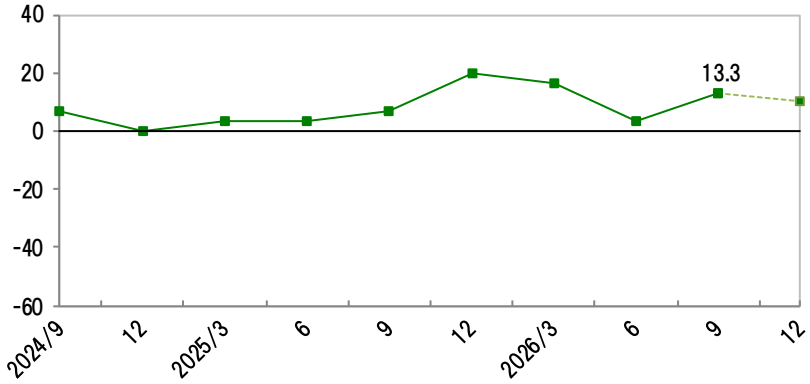
業況DIの推移　[家具・文具]



＜ 建 設 業 ＞

業種	2026 年 7-9 月（今回）業況		2026 年 10-12 月の見通し	
建設業		回復基調、前回調査に続きプラス圏で推移		後退見通し

業況DIの推移　　[建設業]



■ 経営上の問題点、設備投資の動き

The Seto Shinkin Bank

■ 瀬戸・尾張旭地区

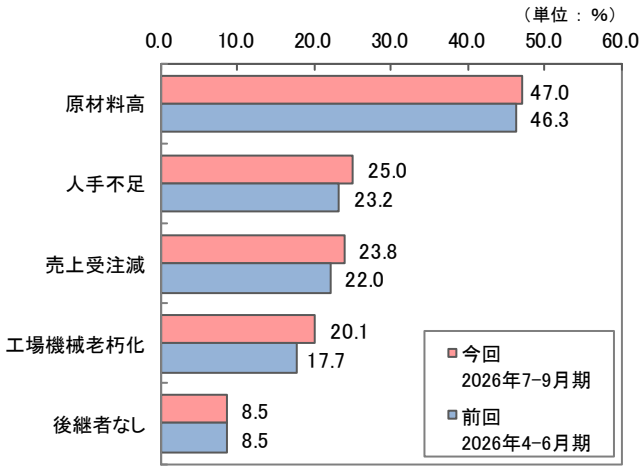
＜経営上の問題点＞

回答割合は「原材料高」が 47.0%と最も高く、「人手不足(25.0%)」「売上受注減（23.8%）」と続いた。前回調査と比較すると、「原材料高」「人手不足」「売上受注減」「工場機械老朽化」ともにポイント上昇した。

＜設備投資の動き＞

「実施あり」は 4.9%（前回比±0）と前回と同水準となった。今後３か月間の見通しについて、「実施予定あり」は 7.3%（今回比＋2.4 ポイント）と今回を上回る予想となった。

＜経営上の問題点＞



※数字は有効回答数に占める割合で1企業が3項目まで回答

＜設備投資の動き＞

（単位：%）

	前回 2026 年 4-6 月期	今回 2026 年 7-9 月期	見通し 2026 年 10-12 月期
実施あり	4.9	4.9	7.3
土　地	12.5	0.0	0.0
建　物	62.5	25.0	8.3
機械の新設	25.0	37.5	33.3
機械の更改	25.0	62.5	33.3
その他	0.0	0.0	25.0
実施なし	95.1	95.1	92.7

※内訳の数字は「実施あり」に占める割合で1企業が複数回答あり

■ 名古屋地区

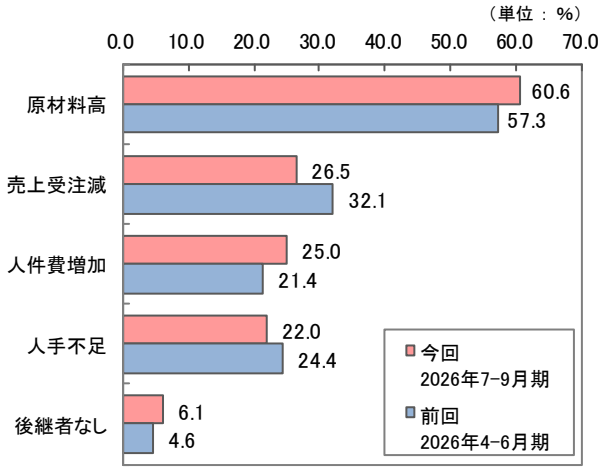
＜経営上の問題点＞

回答割合は「原材料高」が 60.6%と最も高く、「売上受注減(26.5%)」「人件費増加(25.0%)」と続いた。前回調査と比較すると、「原材料高」が 3.3 ポイント、「人件費増加」が 3.6 ポイントそれぞれ上昇した一方、「売上受注減」が 5.6 ポイント低下した。

＜設備投資の動き＞

「実施あり」は 3.8%（前回比▲1.5 ポイント）と前回の実績を下回った。今後３か月間の見通しについて、「実施予定あり」は 6.1%（今回比＋2.3 ポイント）と今回を上回る予想となった。

＜経営上の問題点＞



※数字は有効回答数に占める割合で1企業が3項目まで回答

＜設備投資の動き＞

（単位：%）

	前回 2026 年 4-6 月期	今回 2026 年 7-9 月期	見通し 2026 年 10-12 月期
実施あり	5.3	3.8	6.1
土　地	14.3	0.0	0.0
建　物	14.3	40.0	50.0
機械の新設	28.6	40.0	25.0
機械の更改	42.9	20.0	25.0
その他	14.3	40.0	25.0
実施なし	94.7	96.2	93.9

※内訳の数字は「実施あり」に占める割合で1企業が複数回答あり

【 特 別 調 査 】
中小企業における生成AIの利活用について

生成AIを活用した新たなビジネスモデルや製品・サービスの開発・提供により、AIを導入する企業が増えつつある。そこで今回は中小企業を対象に、企業の業務における生成AIの活用状況についてアンケートを行った。

＜調査対象先＞　当金庫取引先　296社
愛知県　721社　全国　12,874社（愛知県、全国は信金中央金庫の調査によるもの）

1. 生成AI利活用の有無および利活用者

■当金庫全体

・生成AI利活用の有無について、「利活用している」との回答割合が29.0%と、約3割の企業が生成AIを利活用している結果となった。

・「利活用している」の内訳は、「主に経営者（個人事業主を含む）（15.5%）」、「主に従業員（7.8%）」、「全社的に利活用（5.7%）」の順に多くなった。

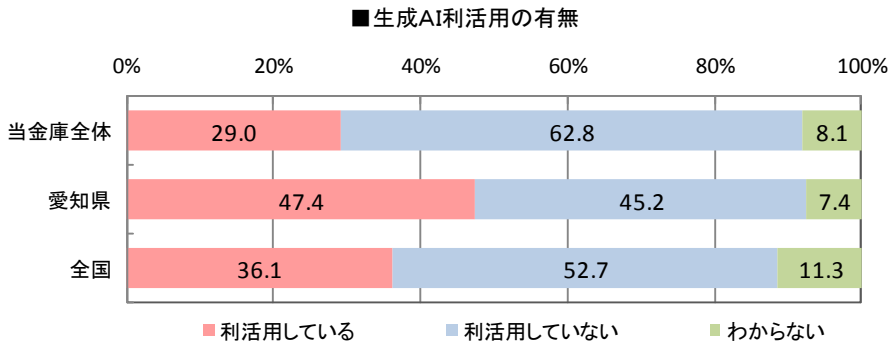
・「利活用していない」との回答割合は62.8%と6割超を占め、「わからない」が8.1%となった。

■愛知県・全国

・生成AI利活用の有無について、「利活用している」との回答割合が愛知県47.4%、全国36.1%と、当金庫全体を上回り、愛知県、全国では生成AIを利活用している企業が多いことが伺える結果となった。

・「利活用している」の内訳は、「主に経営者（個人事業主を含む）（愛知県　20.2%、全国　15.4%）」、「主に従業員（愛知県14.4%、全国11.1%）」、「全社的に利活用（愛知県12.8%、全国9.6%）」と、当金庫全体と順位は同一であったものの、回答割合は差が見られる結果となった。

・「利活用していない」との回答割合は、愛知県（45.2%）、全国（52.7%）ともに当金庫全体（62.8%）を下回った。



「利活用している」の内訳

	主に経営者（個人事業主を含む）	主に従業員	全社的に利活用
当金庫全体（29.0%）	15.5%	7.8%	5.7%
愛知県（47.4%）	20.2%	14.4%	12.8%
全国（36.1%）	15.4%	11.1%	9.6%

2. 生成 AI の用途ないしは関心のある用途（複数回答）

■当金庫全体

・生成AIの用途ないしは関心のある用途について、「文章作成（メール・案内文・議事録）」との回答割合が 37.5%と最も高く、「経理事務作業の効率化（請求書の整理等）」が 25.0%、「データ分析（売上・顧客動向等）」が 19.3%と続いた。

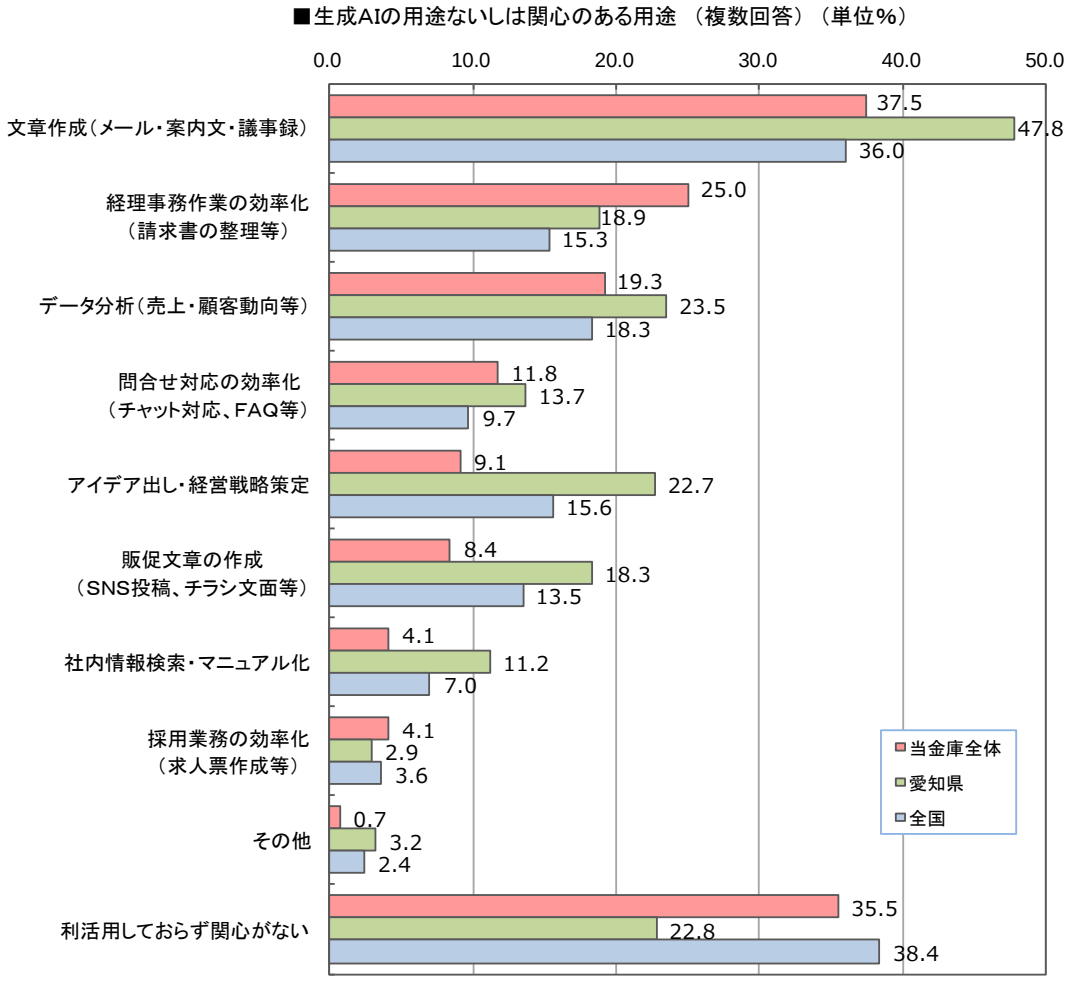
・一方、「利活用しておらず関心がない」との回答割合は 35.5%となった。

■愛知県・全国

・生成AIの用途ないしは関心のある用途について、「文章作成（メール・案内文・議事録）」との回答割合が愛知県 47.8%、全国 36.0%と最も高く、次に「データ分析（売上・顧客動向等）」が愛知県 23.5%、全国 18.3%、「アイデア出し・経営戦略策定」が愛知県 22.7%、全国 15.6%と続き、当金庫全体と順位に違いが見られる結果となった。

・愛知県は当金庫全体、全国と比較すると「文章作成（メール・案内文・議事録）」、「データ分析（売上・顧客動向等）」、「アイデア出し・経営戦略策定」、「販促文章の作成（SNS投稿、チラシ文面等）」、「問合せ対応の効率化（チャット対応、FAQ 等）」、「社内情報検索・マニュアル化」と多岐に亘り割合が高い水準となった。

・一方、「利活用しておらず関心がない」との回答割合は愛知県 22.8%、全国 38.4%となった。



3. 生成 AI 利活用に際する業務上の課題（複数回答）

■当金庫全体

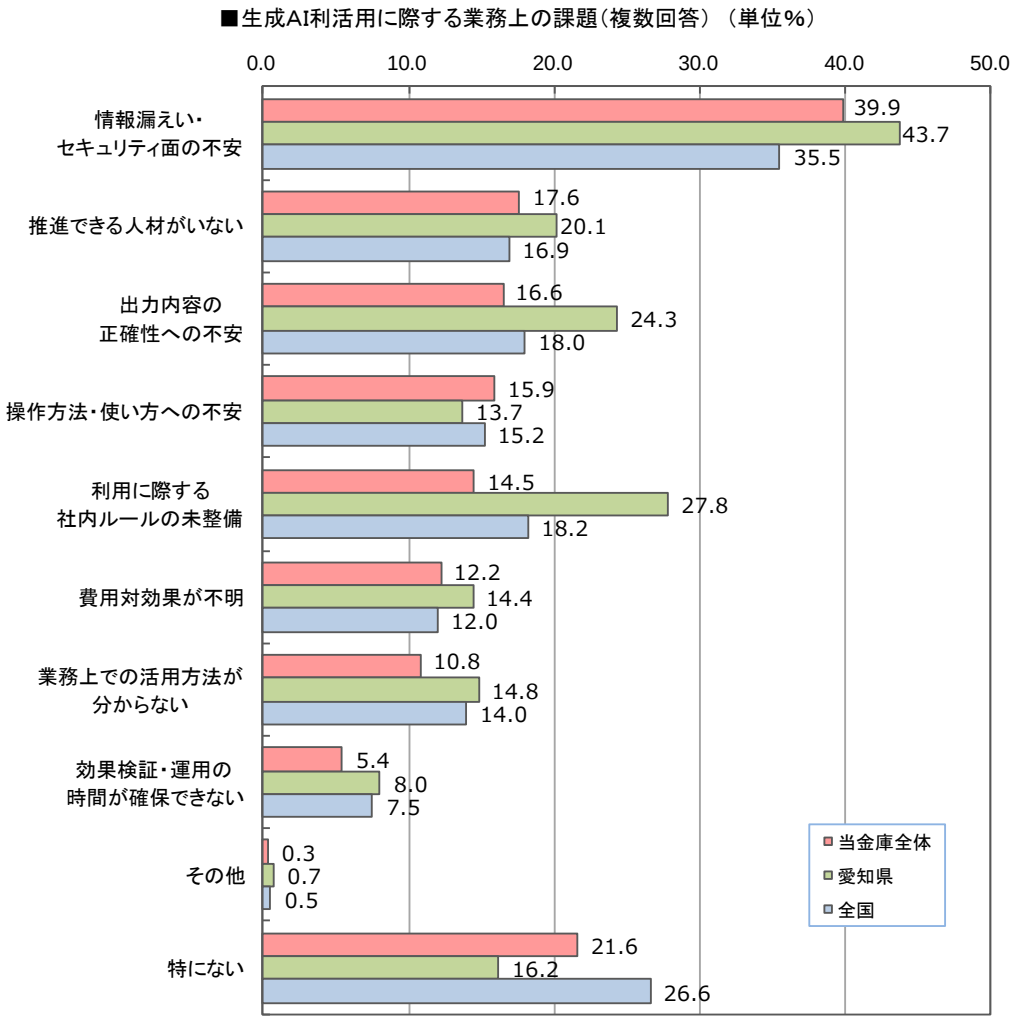
・生成AI利活用に際する業務上の課題について、「情報漏えい・セキュリティ面の不安」との回答割合が 39.9%と最も高く、「推進できる人材がいない（17.6%）」、「出力内容の正確性への不安（16.6%）」、「操作方法・使い方への不安（15.9%）」と続き、セキュリティ面や専門人材不足を懸念する企業が多いことが窺える結果となった。

・「特にない」との回答割合は 21.6%となった。

■愛知県・全国

・生成AI利活用に際する業務上の課題について、「情報漏えい・セキュリティ面の不安」との回答割合が愛知県 43.7%、全国 35.5%と最も高く、次に「利用に際する社内ルールの未整備」が愛知県 27.8%、全国 18.2%、「出力内容の正確性への不安」が愛知県 24.3%、全国 18.0%と続き、愛知県では当金庫全体、全国と比較すると「情報漏えい・セキュリティ面の不安」の割合が高い水準となった。

・「特にない」との回答割合は愛知県 16.2%、全国 26.6%となった。



【 特 別 設 問 】 中東情勢による影響について

4. 中東情勢による調達面での支障ならびに今後の見込み

■当金庫全体

・中東情勢による調達面での支障について、直近（6か月程度）では「一部支障が生じている」との回答割合が51.0%と最も高く、「かなり支障が生じている（1.7%）」と合わせた回答割合は 52.7%と、半数以上の企業で支障が生じていることが窺える結果となった。

・「あまり支障は生じていない」との回答割合は 31.8%となった。

・今後についても「一部支障が生じる見込み（45.6%）」との回答割合が最も高く、「かなり支障が生じる見込み（2.0%）」と合わせた回答割合は 47.6%と、直近（52.7%）と比較するとわずかに改善される見通しとなった。

・「あまり支障は生じない見込み」との回答割合は 36.8%となった。

■愛知県・全国

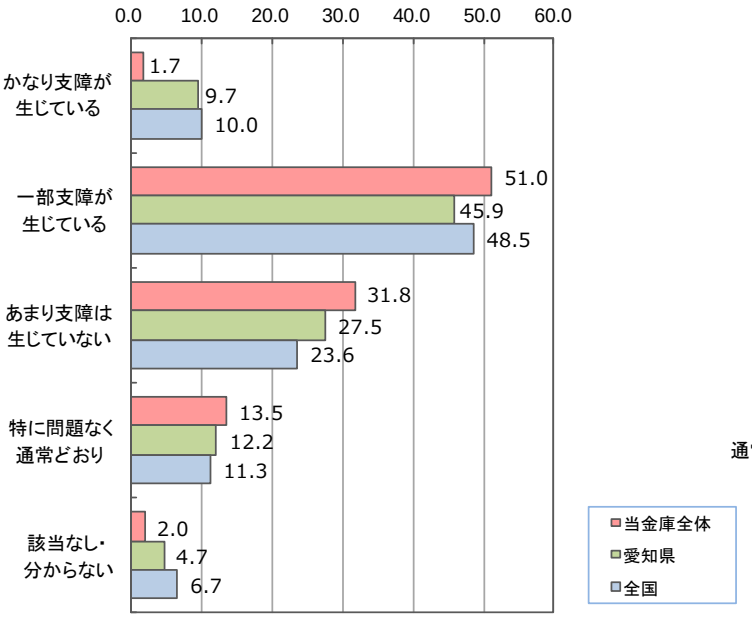
・中東情勢による調達面での支障について、直近（6か月程度）では「一部支障が生じている（愛知県 45.9%、全国 48.5%）」、「かなり支障が生じている（愛知県 9.7%、全国 10.0%）」と合わせた回答割合が、愛知県 55.6%、全国 58.5%と、当金庫全体（52.7%）と比較すると高い水準となった。

・「あまり支障は生じていない」との回答割合は愛知県 27.5%、全国 23.6%となった。

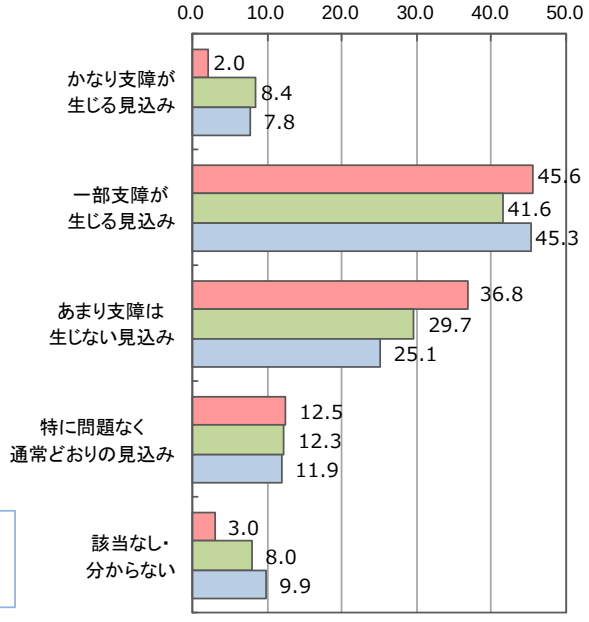
・今後についても「一部支障が生じる見込み（愛知県 41.6%、全国 45.3%）」との回答割合が最も高く、「かなり支障が生じる見込み（愛知県 8.4%、全国 7.8%）」と合わせた回答割合は、愛知県 50.0%、全国 53.1%となった。

・「あまり支障は生じない見込み」との回答割合は愛知県 29.7%、全国 25.1%と、ともに当金庫全体を下回る結果となった。

■中東情勢による調達面での支障 （単位%）



■中東情勢による調達面における今後の見込み （単位%）



5. 中東情勢の混迷化を受けて今後行政に求める支援策（複数回答）

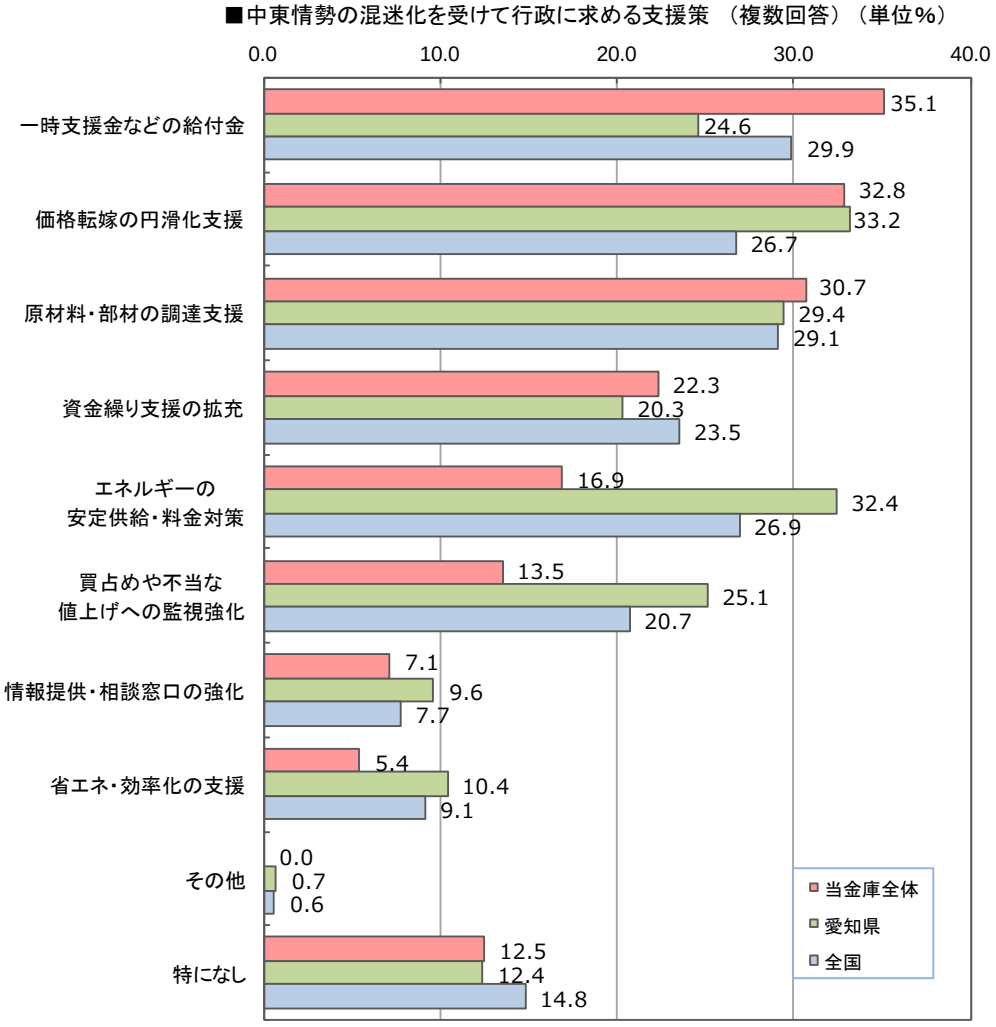
■当金庫全体

・中東情勢の混迷化を受けて今後行政に求める支援策について、「一時支援金などの給付金」との回答割合が35.1%と最も高く、「価格転嫁の円滑化支援（32.8%）」、「原材料・部材の調達支援（30.7%）」、「資金繰り支援の拡充（22.3%）」、「エネルギーの安定供給・料金対策（16.9%）」と続いた。

■愛知県・全国

・中東情勢の混迷化を受けて今後行政に求める支援策について、愛知県は「価格転嫁の円滑化支援」との回答割合が 33.2%と最も高く、「エネルギーの安定供給・料金対策（32.4%）」、「原材料・部材の調達支援（29.4%）」と続き、全国は「一時支援金などの給付金（29.9%）」、「原材料・部材の調達支援（29.1%）」、「エネルギーの安定供給・料金対策（26.9%）」と続き、それぞれ当金庫全体と順位に違いが見られる結果となった。

・愛知県は当金庫全体、全国と比較すると、「エネルギーの安定供給・料金対策」、「買占めや不当な値上げへの監視強化」の割合が高い水準となった。



企 業 景 気 動 向 調 査 No.194
愛知県瀬戸市東横山町 119 番地の 1
瀬戸信用金庫
総合企画部
2026 年 10 月発行